



福島子ども・ こらっせ神奈川

活動報告書 2022



コロナ禍の中で「こらっせ」の将来を考える

2019年から3年ぶりの報告書です。表紙のタイトルが「活動報告書」になり、デザインも新しくなりました。今年度から「神奈川リフレッシュプログラム」への賛同から「こらっせ」の活動への賛同にお願いの趣旨を変えましたので、報告の内容も「こらっせ」の活動全般を紹介しています。

とはいっても「こらっせ」のメインプログラムはリフレッシュプログラム。今年は福島裏磐梯の檜原湖畔で、1回目8/18、2回目9/3に日帰りキャンプを実施しました。実は、今年こそは山北でと計画し、宿泊場所の確保、こらっせユースの募集、山北での研修と準備を進めていましたが、コロナの第7波が押し寄せ、福島っ子を宿泊が伴うプログラムで神奈川に招待するのは難しいと判断しました。

ところが、ご縁があって福島の児童施設の方々とお知り合いになり、コロナ禍で子どもたちが夏休みにリフレッシュするチャンスがないということを知り、「こらっせ」の若い世代を中心に福島での日帰りプログラムを企画しました。「密」をさけるために、参加人数を絞り2回に分け、1回目は11人の子ども、2回目は8人の子どもたちが参加。児童施設のスタッフおよび「こらっせ」のユースとスタッフが付き添いました。檜原湖周辺の自然を満喫した子どもたちは全員が楽しかったという感想。「こらっせユース」も子どもと一緒に遊べた楽しい時を過ごしました。またプログラムの前日にはスタディツアーを実施。檜葉でも8/17～18の同日程で、「応援・スタディツアー」を行いました。

この報告書に掲載されている活動の背景を説明させてください。私達は、コロナ禍だからこそ、今後の方針・活動について議論を深めるチャンスだと考えました。一つは以前から取り組んでいた「山北プロジェクト」を進めることです。神奈川の「子ども食堂」などに集う子ども達を山北に招待し、町の90%が森林で水源地でもある山北町で遊び、同時に森林や水の事を学んでもらおうという内容です。2020年10月、11月、2021年3月、11月に若い世代を中心に山北を訪問。2022年6月に「こらっせユース」の新人研修も兼ねて山北プロジェクトの準備をスタートしました。

もう一つのテーマは「学び」です。3.11 から時が経過するにつれ世間の福島への関心は薄れ、子ども・若者は地震や原発事故の実体験や知識がほとんどありません。若い世代が従来の「応援プロジェクト」(福島現地に行き、子ども達と遊ぶ事)に加え、原発事故の事を学ぶ「福島応援・スタディツアー」を企画し、下見も兼ねて今年の3月、浜通りと福島市へ行きました。また「フクシマを忘れない」「子どもたちの未来のために」という結成時のミッションを想起し、2021年11月は加藤彰彦さんを講師に迎え「子どもたちの未来のため」に何が必要なのかを考えるオンライン講演会を開催。2022年4月のキックオフミーティング・「原発事故から11年、自主避難家族の思うこと」では、いわきから東京・横浜に自主避難している鴨下一家の体験と正義を求める活動を語ってもらいました。

最後に、2年間の空白にもかかわらず、再び「こらっせ」のプログラムに賛同してくださった多数のみなさま、多額の補助金をくださった「パルシステム」、「ラッシュジャパン」のみなさま、福島・山北の協力者のみなさまに深く感謝いたします。

「福島子ども・こらっせ神奈川」事務局長 遠野はるひ

スケジュール 8/17～18、9/2～3

1日目 スタディツアー(福島市・飯舘村)

10:00	福島駅集合
11:00	飯舘村、太陽光パネルを見学
12:00	道の駅までい館で昼食
13:30	福島市、環境再生プラザ
14:30	信夫山、仮設住宅などを見学
15:30	児童施設にて交流
19:30	夕食後、ホテルに到着

2日目 福島リフレッシュプログラム

8:30	バス出発
10:30	ハイキング
12:00	お昼ご飯
13:00	カヌー(湖水浴)
15:00	おやつ
16:00	キャンプ場出発
17:30	福島駅に到着

福島リフレッシュプログラム 8/18、9/3



キャンプ場に行くバスで、レクリエーションを行いました。最初は緊張していた様子でしたが、時々歓声や笑い声も聞こえました。



大切な思い出を作ることができた



キャンプ場まではボートで移動しました。

8月はハイキングの途中で、背丈の高い、葉っぱが枯れたような状態の植物を発見。



五色沼がきれいだった

9月に行った五色沼は、水中に含まれる物質によって色が変わります。沼ごとに色が違って不思議。



お昼ご飯はマッチ棒での火起こしから。「やってみたい人！」という呼びかけに、子ども達は「はい！」と返答します。立ち上がる煙に負けず、懸命にうちわで扇いでくれました。



食材は玉ねぎやピーマン、ナスなどの野菜。全員で協力し、焼き野菜と、大豆ミートの焼きそばを作りました。



大豆ミートがお肉みたいで美味しかった



ご飯の後は、カヌー体験をしました。ライフジャケットをつけ、パドルを受け取り、使い方の講習会です。ある子が自分に向かって、一緒にやろうと言ってくれたのが、愛らしかったです。



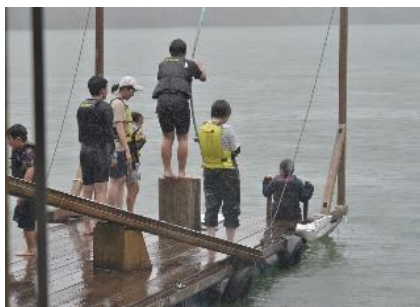
カヌーが初めてで緊張したけど、遠くまで進めて楽しかった



呼吸を合わせて二人乗りのカヌーを運転しました



水遊びが楽しかった
もう少し泳ぎたかった



8月は湖水浴も行いました。ターザンロープに捕まって水に落ちました。雨が強く降りでしたが、元気に遊びました。



マシュマロを焼くのが楽しかった！



8月はおやつにスイカを、
9月は手の平サイズの大きな
マシュマロと桃を串に刺し、
火で焼きました。



帰りのバスで、感想を言ってもらい、暫くすると
大人も子ども達もぐっすり眠っていました。



プログラムにまた参加したい！
夏休みの宿題に今日のことを文章にする

コロナウィルス感染対策で、ワクチン
3回接種、1週間前から体温測定、前日の
抗原検査で陰性を確認しました。



スタディツアー(浜通り・福島市) 3/20～21

20日は楡葉町内を見学した後、語り部講話を聴き、双葉町の施設を見学しました。6号線を北上し、夜は福島市内に宿泊しました。21日は福島市内の信夫山、飯舘村を周りました。

【楡葉町】で、震災後に新設された「みるーる天神」を見学しました。展望台からは津波被害の大きかった地区が眼下に広がり、海の近くにはほとんど家が建っておらず閑散とした印象でした。



双葉町の【東日本大震災・原子力災害伝承館】で、原発は安全で有効活用されていると周知されていたと知りました。【請戸小学校】は外から見学し、1階部分が吹きさらしの校舎には言葉が出ませんでした。



【語り部講話】はどれも胸に刺さることばかりで、震災は今後にも伝えていかなければならないことだと改めて感じました。



【信夫山】の仮置き場では、汚染された土が入った黒い袋が、数えきれないほど積まれていました。実際に自分の目で見えた光景は衝撃的でした。



東日本大震災はまだ終わっていないということを改めて実感しました。私が見た震災はほんの一部にですが、伝えていけたらと思います。

スタディツアー(福島市・飯舘村) 8/17、9/2

広大な土地に太陽光パネルが敷き詰められていて、パネルの下で食物を育てているところもありました。



ぼこぼこしている地面は放射線が留まりやすいため線量が高く、滑らかなコンクリートは低くなっていました。除染の目標数値を未だに上回る放射線を浴びる可能性が残っている事に衝撃を受けました。



福島市の保健福祉センター前に、人体がどれだけ放射線による内部被曝を受けているか調べる「ホールボディ・カウンタ」を搭載した車がありました。



9月はプレハブ式応急仮設住宅を車中から見る事ができました。これは現在まで福島市内に残存する最後のものだそうです。



8月はひまわりなどの花畑が広がっていました。



9月は「道の駅までい館」で昼食をとりました。ホールを見上げると、村人が心を込めて手入れをしている色鮮やかなたくさんの花玉が飾られていました。



ホットスポットファインダーは1秒毎の測定が可能で、かつGPS機能と連動しており持ち歩きながら空間線量率マップを簡単に自動作成できるものでした。



9月は環境再生プラザに行きました。多くの地域で除染活動が進み安全に住めるようになったと感じる一方で、震災から11年たっても、避難地域に指定されている場所もあり、放射線被害の深刻さを感じました。



信夫山の仮置き場は、多少のフレコンバックが残っているものの、工事車両は一台もなくもぬけの殻となっていました。



応援・スタディツアー(檜葉町) 8/17~18

檜葉町の地域学校協働センターのイベントに参加しました。



17日は【水遊び】をしました。
水風船の攻撃も受けながら子ども達と一緒に走り回りました。



温泉磨き後のお昼は
【流しそうめん】を
食べました。



18日は天神岬の温泉施設で
【温泉磨き】をしました。子供
たちはスポンジやたわしを使い
温泉の隅から隅まで磨きました。



17日午前は広野駅に集合し、岩沢海水浴場、檜葉
原子力災害対策センターを通過、Jヴィレッジでオ
リンピック聖火リレーに関する資料などを見ました。



17日午後は二手に分かれて施設見学をし
ました。【リプルンふくしま】は、放射線に
汚染された特定廃棄物の埋立処分事業を学べ
る施設です。震災から何もしていない土地の
放射線量が高くて驚きました。

【とみおかアーカイブ・ミュージアム】は震災
伝承施設で、当時小学5年生の子が避難先ホテル
の便箋に書いた日記が印象的でした。



富岡町の北側、立入規制緩和区域では
娯楽施設の外壁が剥き出しになっていた
り、今でも復興は終わっていません。



18日午後は、語り部講話を聴きました。震災後の生活、差別の体
験を聞いて衝撃を受けました。私自身は関東に住んでいて、発災時
は大きな風が吹いて窓がガタガタしているだけだと思っていました。



毎年リフレッシュプログラムを行ってきた山北町を訪れました。1日目は水と森のお話を聴き、山に入って皮むき間伐を行いました。宿泊は落合館で、2日目はサイクリングとボート、SUP、ハイキングの3コースに分かれ、最後は三保ダムと洒水の滝を見学しました。

【山北町】は面積の92%を森林が占めるなど、緑あふれる町です。自然の中には、NPO法人「共和のもり」があります。元々は小学校だった校舎を改装し、木のぬくもりを感じる交流施設となっています。

「三保弁」は三保地区の地場産品を使っており、民宿の女将などが考案しました。作っている旅館や民宿によって中身は違いますが、とっても美味しい！今回は、大きなヤマメがはいった落合館の「三保弁」をいただきました。



△ 簗沢荘の三保弁
◁ 落合館の三保弁



【洒水の滝】の遊歩道は完全に森の中、静かな雰囲気です。深呼吸すると木の香り、耳を澄ますと川の水音が聞こえます。

山北町で最初に目に入るのが【丹沢湖】で、三保ダムの建設によってできた人造湖です。丹沢湖を囲む森林の景色は壮大で、澄んだ空気も魅力です。



【(仮称)山北スマートIC】は、新東名高速の秦野IC～御殿場IC間に造設されています。大野山からはトンネルやショベルカーが見えました。ICの開通により観光交流人口の増加、企業活動が盛んになることが期待されています。

【サイクリング】は自然の豊かさを存分に楽しむことができます。丹沢湖を結ぶ大きな橋では、思いっきり風を切って爽快な気分になれます。コース途中にある展望台からの景色が綺麗で、頑張って登った甲斐がありました。



【ボート】は初めてだったので、水に浮かぶ瞬間はすごくドキドキしました。「立ち上がると転覆する」と教わり、腰を低くしたまま慎重に交代、なかなか緊張しました。





【SUP】はボードの上に立ち、パドルを左右に漕いで水面を進んでいく新感覚のウォータースポーツです。ボードの上に立てるか不安でしたが、実際にやってみると簡単に立ち上がることが出来ました。



【大野山】に登ってみると結構しんどかったです。道は整備されていて、頂上からの景色は素晴らしく、山々が一望できて最高でした。

山北町訪問 森について 6/4



日本の【林業】の課題として、林業従事者の減少、木材の供給不足などが挙げられます。私は、山には行ったことがありましたが、森には行った記憶がなかったため、良い経験になりました。

間伐で使う【竹ヘラ】は竹の先端をナイフで削ります。木の幹にのこぎりで切込みを入れ、竹ヘラで木の皮を持ち上げ、皮を剥いていきます。



【皮むき間伐】は木が立ったままの状態です。樹皮をむき、立ち枯れをさせてから伐り倒す方法です。森は足場が悪く、転びそうになり苦戦しました。樹皮をむいた木は、根から吸っていた水分で湿っていました。

山北町訪問 鉄道について 6/18



山北町鉄道資料館の方に案内をしていただきました。

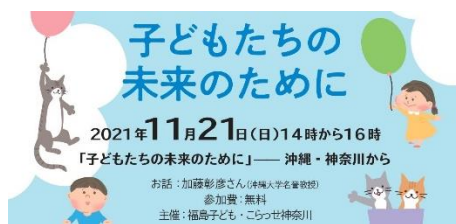
山北駅の裏にある鉄道公園には【D52】が展示され、地元の方が動くように修理をしました。間近で見た機関車は車輪がとても大きく、迫力がありました。この公園からは山北駅が見えます。駅のホームは、開業当時の130年前から同じものを使用しているとのこと。

鉄道唱歌にも歌われる【第一橋梁】に来ました。酒匂川と山との風景が何とも美しく、ちょうど御殿場線の電車が走る場所も見られました。【第二橋梁】には、線路の横に柵のようなものが無く、一本橋のようです。戦争によって、マンマーに持って行かれてしまいました。



21年11月 オンライン講演会(講師:加藤彰彦さん)

2021年11月21日にオンライン講演会を開催しました。
テーマは「**子どもたちの未来のためにー沖縄・神奈川からー**」です。コロナ禍で従来のプログラムが実施出来ず、このような時は原点に戻って子どもの人権を学ぼうと、講師に沖縄大学名誉教授の加藤彰彦さんを迎えました。



1時間ほどの講演では、生い立ちから現在にいたるまでの歩みに沿って、子どもとのかかわりについての体験が語られました。加藤さんが強調されたのは、「いのち」の大切さ、生きることの意味でした。幼少期、1945年3月10日の東京大空襲で生後10カ月の妹を亡くすという悲惨な体験をしたことなど、いくつかの原体験が紹介されました。

講演会の参加者は約60名で、質疑応答で加藤さんは一人ずつ丁寧に答えられ、とても有意義な時間をもつことができました。

講演会後に20名近い方から心のこもった投稿があり、子どもたちへの熱い思いが伝わりました、何度も胸が熱くなりましたという感想とともに、子どもの権利条約の精神を生かした取り組みが重要、家族以外で子どもが安心できる場所・人が大事、行政・地域社会と連携した居場所づくりが必要など、加藤さんの思いに共鳴する意見が寄せられていました。

4月 キックオフミーティング(講師:鴨下さん一家)

4月3日、キックオフミーティングをオンラインにて開催し、約80名の参加がありました。

タイトルは「**原発事故から11年、自主避難家族の思うことー聞いて、カルガモ一家の物語をー**」で、原発事故から自主避難して現在は東京電力と国に対して原発事故の責任を追及する裁判(東京第二次訴訟)を中心的に進めているカルガモ一家の3人、鴨下祐也さん、美和さん、全生さんに登壇していただきました。コーディネーターは、加藤彰彦さんです。



2011年3月の東日本大震災、原発事故から11年が過ぎ、世の中の関心が薄れつつあるなか、「フクシマを忘れない」という私たちの思いを再確認するための企画でした。



オンラインでキックオフ!

2年ぶりにキックオフ・ミーティングを開催します。
子どもたちと共に「こらっせ」のプログラムはコロナ禍で中止になりましたが、同時に「フクシマを忘れない」という徹底したメッセージを再考するチャンスになりました。
カルガモ一家の物語は、私たちに子どもたちの未来のために、何ができるかを考えさせてくれるでしょう。

2022年4月3日(日)14時~16時

原発事故から11年、
自主避難家族の思うこと
聞いて、カルガモ一家の物語を

最初に、カルガモ一家のお父さん、祐也さんから放射線被ばくの問題を中心にしたお話がありました。お話で強調されたのは、放射能汚染の測定がいい加減であり、精度の低い測定によって食品の汚染が容認されていることでした。

次に、長男の全生さんが「福島から東京へー19歳が問う原発事故」というテーマでお話をされ、ヨーロッパと比べて日本では原発問題への議論が足りない、情報が不足していることは問題だとして、裁判に取り組むなど、被災の実態を訴えられました。

三人目に登場したお母さん、美和さんからは、事故直後の避難の生々しい状況、母子避難の苦労、内部被ばくから子どもを守ることの重要性などが語られました。

ご支援・ご協力をいただいた方々

WE21ジャパン／WE21ジャパンいそご／WE21ジャパンこうほく／WE21ジャパンさかえ／WE21ジャパンとつか／WE21
ジャパン藤沢／WE21ジャパンよこすか／かながわ生き活き市民基金／神奈川県教職員組合／神奈川県高等学校教職員組合
／神奈川県ネットワーク運動／かながわボランティア活動推進基金21／共和のもり／小塚剛夫／坂本みや／杉山照枝／生活ク
ラブ生活協同組合・神奈川／丹沢湖記念館／千村和司／とれたて山ちゃん／橘葉町教育委員会／橘葉町社会福祉協議会／パ
ルシステム神奈川／パルシステム生活協同組合連合会／ビートルズのチカラ実行委員会／福島原発かながわ訴訟を支援する
会／福島地域福祉ネットワーク会議／辺見妙子／常沢荘／山北町教育委員会／山北町鉄道資料館／山北町役場／湯川裕司／
吉野裕之／ラッシュジャパン合同会社（五十音順）

賛同団体

WE21ジャパンさかえ／WE21ジャパン藤沢／神奈川県高等学校教職員組合／神奈川県ネットワーク運動／神奈川平和遺族会／
神高教シニア運動／相模原商事／日本キリスト教団横浜上倉田教会／ビートルズのチカラ実行委員会／東日本大震災・復興
支援まつり実行委員会／避難者の会・かながわサポーターズ／福島原発神奈川訴訟を支援する会／ユニオンコスカ／W.Co
花もめん／W.Co森のはらっぱ（五十音順）

賛同個人

青木愛美／荒川淳／石川美佐緒／石下直子／石塚光行／井出都／伊藤大介／上野勝／梅田悦子／蛭谷康一／大野圭子／大治
朋子／奥村美知子／小津みち子／小山千鶴子／加藤彰彦／金澤あゆみ／金子文夫／鎌田広将／亀井君枝／加山久夫／木村早
苗／日下景子／工藤妙子／國井哲男／久保新一／黒澤知弘／高力英夫／五藤久枝／児玉繁信／坂上みつる／坂上美代子／坂
巻フミエ／佐々木紀子／笹野和恵／佐藤聡／佐藤公彦／佐藤茂伸／佐藤みつ／佐藤令子／佐野清文／清水雅大／篠崎栄子／
鈴木江郎／首藤天信／高野克美／高橋美智子／高橋祥夫／竹田邦明／田崎耕次／田崎政子／立岡英宏／田沼時代／千野紀美
子／千村和司／塚本鉄男／植垣敬子／露木順一／鶴田賀陽子／鉄地河原清美／土井昌治／遠野はるひ／戸田真由美／富山基
録／中川登志男／永瀬裕子／中村潔／中村光一／中村徳子／中村信子／錦織順子／沼里和幸／野口いづみ／蜂谷隆／原ヨシ
子／日浦幸子／東祐司／藤井あや子／藤島政彦／藤見睦彦／藤本泰成／古河和男／古川文乃／風呂橋修／細谷弘子／前園由
美子／前田正裕／松田正／松原ノリ子／松本明子／真矢公子／三輪純子／三輪智恵美／向田映子／武藤一羊／村田隆／村田
弘／村田由美子／森幸子／森下育代／八島忠義／梁島暁美／山浦真由美／山際正道／山城恵子／山田勇／山田俊子／山中悦
子／山西道子／山本明德／横山満里奈／横山道史／吉田哲四郎／吉田明／渡辺郁江（五十音順）

会計報告

2022年度(4月1日～9月15日)

収入	
寄付金及び賛同金	123,000
助成金	
・ラッシュ・ジャパン	500,000
・パルシステム協同組合	310,000
(上半期分)	
団体からの繰り入れ金	350,168
合計	1,283,168円
支出	
団体運営管理費	85,149
(通信費、交通費、事務費、調査費等)	
講演会・学習会	50,676
山北プロジェクト	195,729
福島リフレッシュプログラム	656,196
福島応援・スタディツアー	295,418
合計	1,283,168円

編集後記

コロナ禍で約2年間の空白があり、久しぶりのプログラム実施となりました。今回は福島県内でのプログラムとあつて、今までとはまた違う大変さがありました。大きな事故がなく実施ができたことにひと安心しています。限られた時間ではありましたが、元気で笑顔の子ども達に会えたことが嬉しかったです。スタディツアーでは、若い世代にとって初めて知ることの連続だったようで、実施した意味があったと感じました。来年こそは、神奈川に子ども達を呼んで、リフレッシュプログラムが実施できることを期待しています。今後とも応援の程、宜しくお願い致します。

「福島子ども・こらっせ神奈川」事務局 横山満里奈

スタッフ

- こらっせユース
會田結衣／井手美由希／神崎文花／河野みずき／小林真子／近藤俊輔／下平啓介／醍醐由珠／樋口優奈／廣瀬琳／深堀なつみ／水谷響／山際七莉／山藤花奈
- 市民ボランティア
和泉百香／影浦あゆみ／杉浦幹／田崎耕次／田崎政子／横山道史
- 事務局スタッフ
青木愛美／金澤あゆみ／金子文夫／佐藤聡／清水雅大／首藤天信／高橋おいどん／遠野はるひ／錦織順子／蜂谷隆／藤井あや子／山際正道／横山満里奈





賛同人を募集しています！

賛同金(一口) 個人3,000円 団体10,000円

ご賛同頂ける方は、振込用紙に住所・電話番号・アドレスの記載をお願い致します。報告書、ニュースレターをお送りします。

振込先 郵便振替

口座名称 福島子ども・こらっせ神奈川

口座番号 00270-7-101155



活動報告書 2022年

発行日 2022年9月26日

編集・発行 「福島子ども・こらっせ神奈川」

TEL:045-353-9008 FAX:045-353-9998

E-mail : info@korasse-kanagawa.org

WEB : <http://korasse-kanagawa.org/>

Twitter @korasse_kana



表紙デザイン 高橋晃

制作 事務局

こらっせWEB